

「イスラエル建国史」

30 英委任統治下のパレスチナ 7

『つのぶえ』紙に掲載された「イスラエル建国史」の過去記事は、ハーベストタイムのウェブサイト (<http://www.harvesttime.tv/news-topics/history-of-israel/>) で公開しています。

ユダヤ人社会の成長

1937 年は、第 1 回シオニスト kongress から 40 年、つまりシオニズムが運動として歩みだして 40 年になる、節目の年であった。この年のシオニスト kongress (第 20 回) は、チューリッヒで開催されたが、これとは別に 40 周年記念集会在、バーゼルで開かれた。

第一次世界大戦を間にはさんだ 40 年間は、大激動の時代であったが、この間にパレスチナには、人口 40 万を擁する近代的ユダヤ人社会が、しっかりと根をおろしつつあった。教育や文化面を中心とする社会基盤は、1930 年代に急速に整備されていくのである。ユダヤ人社会が最も大切にしている教育をひとつとってみても、その根付きがうかがえる。ヘブライ大学、テクニオン工科大学は、それぞれ創立 10 周年を既に迎えており、1934 年にはハイム・ワイツマンによってダニエル・シフ研究所が創立された。ワイツマン科学研究所の前身である。民族評議会 (第 27 回記事参照) を責任部門とする初等科教育は、ほぼ全子弟を対象にする迄に普及した。

メディアの誕生と成長

現在、イスラエルのオピニオンリーダーの役割を果たしているメディアは、ハアレツ (1918)、ダバール (1925)、エルサレムポスト (1932、当時の名称はパレス



レバントフェア (東地中海博) の様子

チナポスト) が既に存在し、『エディオット・アハロノット』が 1939 年に創刊されるので、『マーリヴ (1948 年 2 月創刊)』を除き、現在の有力紙はすべてこの時代に出揃い、盛んに論陣をはるのである。

ラジオは、1934 年のレバントフェア (東地中海万博) がテルアビブで開催された時から、試験放送が行われていたが、1936 年 3 月 30 日に「コール・エルシャライム (エルサレムの声)」として、正式の放送を開始した。現在のコールイスラエルの前身である。ちょうど 3 年後の 3 月には、イルグンが「コールツィオン・ハロヘメット (戦うシオンの声)」の放送を始めている。さしずめゲリラ放送のはしりである。

目覚ましい発展をとげる文化とスポーツ

1958 年にイスラエルの国立劇団となった「ハビマー (舞台の意)」は、ロシアに生まれたイーデッシュ語 * の劇団であったが、1931 年に本拠地をテルアビブに移し、以来イスラエルを代表する劇場のひとつとなった。

スポーツの分野でも、大きい発展がみられた。第 12 回シオニスト kongress (1921 年) の時に、「マカビ世界連盟」がつけられた。青少年の体力増進とスポーツを通じたユダヤ人社会の交流を目的としたが、シオニスト機構の傘下に入れると、非シオニストのユダヤ人の参加が見込めないで、独立した団体となった。そのスポーツ行事は「マカビア」と称され、第 1 回チェコ (1929)、第 2 回ベルギー (1931) で国際競

【これまでの流れ】

1948 年のイスラエル建国は、空白地帯に突如降って湧いたようなものではない。イスラエルが建国されたパレスチナの地には、建国のはるか以前からユダヤ人共同体が存在し、祖国建設を目指して祖先の地に移住したユダヤ人たちの地道な努力があった。

パレスチナの地でのナショナルホーム建設を認めたバルフォア宣言を事実上撤回するパスフィールド白書が 1930 年に公表され、ユダヤ人社会では激震が走った。しかし、ワイツマンの抗議もあり、その翌年の 1931 年には英首相マクドナルドによってパスフィールド白書を撤回する白書がだされ (マクドナルド白書)、英政府はバルフォア宣言の路線に回帰した。一方、ドイツではヒトラーが首相に就任し、制度的なユダヤ人迫害を開始する。そのような変動する国際情勢の中で、パレスチナの地でも、ユダヤ人社会を揺るがす大事件が発生する。

技大会が開かれ、翌年開催の第 3 回から、テルアビブで開催されるようになった。この時は 14 ケ国からスポーツ選手 390 名が参加した。第 4 回は 1935 年であるが、4 年に一度オリンピック年の翌年に開催されることになった。しかし、不幸にして戦争となり、第 5 回はイスラエル独立後の 1950 年に開催された。以来ユダヤ人のオリンピックとして定着している。

文化面で最も輝かしい出来事は、恐らくパレスチナ交響楽団 (現イスラエル・フィル) の創立であろう。バイオリニストとして知られる B・フーバーマン (1882 ~ 1947) が東奔西走して、ナチの迫害にさらされる一流のユダヤ人音楽家を集め、オーケストラを編成したのである。1936 年 12 月 26 日、テルアヴィヴで創立演奏会が挙行された。演目はブラー



B・フーバーマン



第1回マカビア競技大会

ムスの交響曲第2番、そしてオペロン序曲、客員指揮者として招かれた巨匠トスカニーニが指揮し、感動を呼んだ。

1930年代に生まれたものは、イスラエル社会の原型であり、今日みられるような姿に発展した。ヘブライ大学、テクニオン工科大学、ワイツマン研究所からノーベル賞受賞者が誕生し、イスラエル・フィルは、世界の交響楽団の5指に入るまでになった。しかし、その社会は、内外の激しい圧力にさらされながら、成長していったのである。

アラブの反乱

1920年12月に開催された第3回全シリア議会は、南シリア（パレスチナ）問題を扱う組織として、アラブ執行部をつくった。アラブの反シオニズム運動は、1920年後半はムスリムの宗教的色彩が濃厚で、その典型的事例が、西壁礼拝をめぐる1929年の反ユダヤ暴動である。

しかし、1930年代になると、アラブの苛立ち、発展するユダヤ人社会そのものに向けられてくる。つまり、発展に対する嫉妬である。しかし、執行部は求心力を失い、1934年に崩壊する。

代って登場したのが、1936年4月25日に設置されたアラブ高等委員会である。エルサレムの大法官ハッジ・アミン・エルフセイニのパレスチナ・アラブ党を初め、六つの党派で構成され、10人編

成の委員会であった。その10名のなかには、ナシャシビー族のように穏健派のメンバーもいたが、組織はフセイニを初め過激派



ハッジ・アミン・エルフセイニ

に牛耳られていた。委員会が目的に掲げたのは、(1)パレスチナのアラブ支配、(2)ユダヤ人の移住中止、(3)ユダヤ人に対する土地売却の禁止である。しかし、その行動は、反ユダヤ宣伝、デモとストライキの組織化、テロが中心であった。

1936年4月15日、ナブルスとトルカレムの間で、二人のユダヤ人が殺された。翌日このテロに対して、イルグンが報復した。かくして、アラブの暴動が始まる。4月19日、ヤッフォのユダヤ人社会が襲撃され、ユダヤ人16名が殺害された。そしてアラブ高等委員会がゼネスト**を宣言した。これが所謂「アラブの反乱」といわれる暴動である。ストライキは、10月まで続くが、この間ユダヤ人80名が殺された。アラブ人の死亡は140名。イギリス人官憲33名も死亡した。鎮圧時の犠牲である。ユダヤ人社会では、店舗が襲われ、農場の耕作物が引抜かれるなどの被害をうけた。

ユダヤ人国家の建設を認めたイギリス

1936年5月イギリス政府は、今回の暴動について調査団派遣を決定した。しかし、暴動の終息を待つということになり、調査団が現地入りをしたのは、11月になってからである。ロバート・ピール卿を団長とする調査団は、11月11日から任務に着手し、翌年1月17日に調査を終えた。アラブ人とユダヤ人合計137名から聞きとり調査をおこなっている。



エルサレムのキング・デービッド・ホテルを出るピール卿

調査団の報告書は、1937年7月にだされた。そのなかで、調査団は次の結論に達した、と発表した。

報告書は、「小さい土地の狭い一画で、手に負えない紛争が二つの民族社会の間で生じている。人口約100万のアラブ人社会が、40万ほどのユダヤ人社会と、公然或いは水面下で反目している。両者に共通基盤はない」としたうえで、「このような状況のもとで、パレスチナ市民という呼び方に何がしかの道義的意味を付与していくのは、有害なごまかしにすぎない…しかし、どちらの社会も全パレスチナを支配できる正当性を持たない」とした。そして、「分割が究極の平和をもたらす機会を提示している」、「ほかの案にはこれがない」との結論に達し、パレスチナの分割を提案した。この年9月には、イーデン外相も「分割が唯一の解決法」と述べた。

イギリスは、これまでユダヤ人側に、ナショナルホームの建設は認めても、ユダヤ人国家の建設を認めるとは言っていなかった。ところが、ピール調査団報告をうけて、イギリス政府が、分割やむなしとの結論に達したのである。即ちユダヤ人国家の建設に同意したわけで、まさに画期的なことであった。

アラブ人社会にも国家建設の機会が与えられたが、アラブ側は言下にもこの提案を拒否した。一方ユダヤ人社会ではシオニストの間で賛否両論の意見があった。いずれもそれぞれに理由があった。

*イーデッシュ語：世界中で400万人のアシュケナージ系（中欧・東欧系ユダヤ人）ユダヤ人によって使用されている言語で、インド・ヨーロッパ語族のうち西ゲルマン語系に属する言語の一つである。

**ゼネスト：ゼネラルストライキ（general strike）の略。一企業や組織によるストライキではなく全国的規模で行われるストライキのことである。

ユダヤ・中東研究家 滝川 義人

1937年長崎県生まれ。

早稲田大学第一文学部卒業。イスラエル大使館チーフ・インフォメーション・オフィサー（1968～2004）として勤務。

現在、MEMRI（メモリ、中東報道研究機関）日本代表。ユダヤ・中東研究者。主要著書：『ユダヤ解説のキーワード』（新潮社）、『ユダヤを知る事典』（東京堂出版）など多数。

